

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

池田町では、令和5年度に「池田町教育大綱」を策定し、学校教育の基本目標である「育つ力を育てる」の重点項目として「デジタル社会に生きる子ども」「主体的に物事を考え、探究する子ども」を掲げています。1人1台端末を活用して「個別最適な学び」や協同的な学びによる「主体的・対話的で深い学び」を実現し、社会の変化に柔軟に対応し、自ら学び、自ら育つ力を養い育てていきます。

2. GIGA第1期の総括

1. 経緯と現状

池田町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度に小・中学校の児童生徒に1人1台端末を整備し、令和3年4月より供用開始しました。この5年間で学習用端末を接続するためのICT環境の整備を進めるとともに、教育現場での活用を推進してきました。令和6年度に福井県が実施した学校教育DX進捗状況調査では、「教科指導におけるICT活用」において、県内で高い水準となっています。

2. ICT施策の実施内容

・教育支援設備の導入

電子黒板を1教室1台配置し、モニターやプロジェクターなども併用し、授業内容と子どもの意見の集約を同時に表示することで双方向・対話的な学びを実現しています。

・デジタル教科書・デジタル教材の導入

池田町では学校現場において学習効果が高いと感じられる教科において積極的にデジタルコンテンツの導入を行っており、現在ほぼ全ての教科でデジタル教材が導入されています。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的な活用

GIGAスクール構想第2期においても、1人1台端末の十分な予備機の整備や、1教室1台の電子黒板、デジタル教科書の充実など1人1台端末を積極的に活用できる環境を維持し、デジタルドリル教材を拡充するなど、さらに環境を充実させていきます。

(2) 個別最適・協同的な学びの充実

現在、授業において1人1台端末をつかってグループで複数の意見・考えを共有し、話し合いによって思考を深めながら、意見を整理することが日常的になっ

ています。小規模学校のメリットとして、個々の学習状況の把握ができ、学習のフォローが入りやすい環境となっていますが、新たに取り入れるデジタルドリルの活用により、個別最適な学びのさらなる充実を図っていきます。

(3) 全ての児童生徒の学びを保障するために

現在、各学校において、「誰一人取り残さない学びの保証」に向けて、不登校や体調不良により欠席した児童生徒に対して、希望に応じ1人1台端末により授業を共有しています。授業に参加することは難しい場合でも、学習アプリでの学習であれば楽しく取り組める場合があり、多様な場面で1人1台端末を活用していきます。